

令和4年11月30日

新型コロナウイルス変異株（オミクロン株「BQ. 1.1系統」） の患者の確認について

新型コロナウイルス陽性者の検体について、県環境保健センターでゲノム解析を行ったところ、オミクロン株の「BQ. 1.1系統」が1例確認されましたので、お知らせします。

国立感染症研究所の見解では、変異株であっても、個人の基本的な感染予防策は、従来と同様に、三密の回避、マスクの着用、手洗いなどが推奨されることが示されています。

県民の皆様におかれましては、基本的な感染防止対策の徹底をあらためてお願いします。

個別の状況（オミクロン株「BQ. 1.1系統」）

例目	年代	性別	発症 症状	備考
1	非公表	非公表	無症状	海外滞在歴なし、不特定多数との接触なし

（参考）オミクロン株「BQ. 1.1系統」について

- 世界的にBA. 5系統が主流となっているが、スパイクタンパク質に特徴的な変異を有するオミクロンの亜系統、及び組換え体が複数報告されている。
- 欧州及び米国から多く報告されているBQ. 1系統、BQ. 1.1系統（BA. 5. 3系統の亜系統）、インドやシンガポールなどを中心に報告されているXBB系統（BJ. 1系統（BA. 2. 10系統の亜系統）とBM. 1. 1. 1系統（BA. 2. 75. 3系統の亜系統）の組換え体）等、感染者増加の優位性が指摘されている亜系統もある。
- 欧州では、BQ. 1系統やBQ. 1.1系統の占める割合が増加している国もあり、今後、さらに割合が増加することが見込まれているが、現時点では感染者数の顕著な増加は確認されていない。
- WHO等によると、これらの変異株について、免疫逃避から感染者数増加の優位性につながっている可能性は指摘されているが、これまでに得られた情報によると、感染性や重症度等が高まっていることは示唆されていない。
- 新たなこれらの亜系統や組換え体の特性について、引き続き、諸外国の状況や知見を収集・分析するとともに、ゲノムサーベイランスによる監視を続けていくことが必要。

（R4. 11. 22厚生労働省アドバイザリーボードより一部抜粋）

- 風評被害の防止や個人情報保護の観点から、患者及びご家族等の個人情報については、特定されることのないよう格段のご配慮をお願いします。また、施設等への取材はご遠慮いただきますようお願いいたします。
- 人と接する仕事に従事されている方で、発熱や風邪のような症状がある場合には、仕事を休んでいただくようお願いいたします。休んでいただくことは、感染拡大の防止にもつながる大切な行動です。